

第 12 回外洋加盟団体長会議 議事録

開催日時：2020 年 1 月 26 日(日) 10:00～14:30

開催場所：夢の島マリーナ 第一会議室

出席者：(理事)

馬場益弘副会長、中澤信夫副会長、坂谷定生常務理事(東海会長)、平松隆、
菊池邦仁(いわき会長)、新田肇(外洋三崎会長)、作田智恵子(湘南事務局長)
橋田佳音利

(加盟団体)

津軽海峡会長 木浪英喜、東京湾会長 足立利男、事務局長 望月規矩雄
三崎副会長・事務局長 中里英一、三崎副会長 近藤等、三浦会長 庄野栄一
事務局長 関根照久、湘南副会長 浪川宏、近北会長 高橋利明、内海事務局長 猪上忠彦
事務局員 北中育子、西内海事務局長 小山悟、玄海会長 沼田浩行、南九州理事 石川国彦
(委員会)

外洋計測委員長 八木達郎、外洋計測委員会 ORC 委員長 吉田豊、
ルール委員会外洋小委員長 大村雅一、
国際委員会外洋小委員会委員 鈴木一行
国際委員長 望月宣武

(事務局)

外洋常任委員会事務局長 鈴木保夫

(順不同、敬称略) 合計 28 名

I. 開会のあいさつ

馬場副会長：ただいまより第 12 回団体長会議を開催します。昨日の全国代表者会議、そして新年会への出席と、大変ありがとうございます。

オリンピックもあと半年となりました。これから先は外洋、ディンギーの関係なく日本のセーリングチームがメダルを取って頂くよう、応援もちろんのこと中澤副会長を先頭にサポートしてまいりたいと思います。皆さんにも宜しく申し上げます。

そして横浜-パラオ親善レースは素晴らしい功績を残せました。

2 国間の親善、そしてジュニア育成、「みらいへ」の参加、そしてマイクロプラスチックの採集。

何よりも安全に全艇が完走したことが素晴らしい。

改めて新田さんに拍手を送りたい。

2020年のパリオリンピックよりオフショアが正式種目となった。

外洋系としては素晴らしいことと思う。

後で担当の方より説明があるが、5月に選考レースが行われる。

引き続き馬場副会長命により、坂谷常務理事が議長となり、議事録署名人に、新田肇氏、沼田浩行氏の両名を指名し、議事に入った。

II. 議事

1. 次期理事選挙の対応について

坂谷常務理事：選挙のスケジュールは資料「2020-21 理事候補推薦手続きと全体スケジュール」の通りである。選挙は事実上昨日スタートした。3月2日に代表者に投票依頼があり、19日が投票締め切りとなる。投票締め切りギリギリとなり無効表が出る事が無いように早めの投票をお願いする

水域理事については資料「水域理事候補者選出表」の通りであり、理事数は表の左側がディンギー、右側がクルーザーである。

馬場副会長：ガバナンスコード講習会に参加するので退席するので後は中澤副会長にお願いする。その前に、シーホースマガジンについて猪上さんに報告して頂く。

猪上：シーホースマガジンは情報量が多いので理事の皆さんの購読をお勧めしたい。

今回は「スレッド」の大倉氏が載っている。

馬場副会長 退席。

2. 2020 外洋世界選手権の最新情報と今後の対応について

鈴木一行国際委員より配布した資料に基づき以下のように概要が説明された。

2018年に開催の話があったが、ようやく実施されることになった。

今年の世界選手権は19ヶ国以上が参加に手を挙げた。

2020 外洋男女混合世界選手権はマルタで、10月17日スタートの3オーバーナイト約500マイルで開催される。使用艇はLuka30のチャーターとなる。

パリで採用する艇は2023年までに決まる。

日本についてはアジア枠として国別予選枠の免除となり、本選に行けると考えられる。

日本の代表選考方法はJSAFオリンピック委員会と調整中であるが、公正を期するために予選を行う。

選考レースは今年のゴールデンウィークに和歌山をスタートして蒲郡をフィニッシュとするレースを予定している。

日本代表を決める予選の実行委員長には八木氏にお願いの予定。

植松顧問を含めて関係団体と協力して、外洋の活性化を図れるよう進めたい。

坂谷常務からは、予選雄実施の予告をオリ強の HP に UP するとの説明があり、出席者から以下の質疑がなされた。

作田理事：エントリー艇が 1 艇の場合でも、資格の 200 マイルをクリアするためにレースを行うのか？

坂谷常務：エントリー艇の経験を考慮して考える。

新田理事：今の話だと自分たちの経験としての参加資格をクリアするためだけの人は辞めて欲しい。そのあとの資金力がある人じゃないといやだよ、というレース委員会の意向だと思うが、先程 3 艇位の話だったがその 3 艇はエントリーが確定しているのか？

オブラートに包まれているので、本音の部分が良く分からない。

何をどう私たちが捉えて良いのかわからない。

鈴木一行：予選枠が正式にワールドセーリングから案内されていないので良く分からない。3 艇から問い合わせがあったが、こちらからはアプローチをかけていない。

それでも 3 艇については本人の話をよく聞いた上で考えていく。

新田理事：オリンピックが国を挙げての事業であることは良くわかるが、沖縄レースは 700 マイルである。何故和歌山から蒲郡までのコースに決定したのか？

沖縄と一緒にやる選択肢は無かったのか経緯を教えてください。

鈴木一行：沖縄スタートで鹿児島フィニッシュを考えたが、ダブルハンドで沖縄まで回航することの負担と安全面を考慮し、また参加艇が今から沖縄まで 30ft で回航するリスクを考えた。

坂谷：3 艇が参加するだろうというのはあくまでも我々の想定である。

個人負担が絶対にあるので資金のない人には遠慮願いたいと考えている。

外洋加盟団体にも負担をしてもらうことも相談させていただく。

新田理事：クルーザーとして初めてのオリンピックだが他の競技は同じように資金はどうなっているのか。

中澤副会長：JOC ではオリンピックの助成金は 2 割が自己資金となっている。

企業が寄付としてもらったものを充てるのはダメなようである。

大村：連盟を通して本人に渡った資金は自己負担とならないと考える。

作田：有志が資金を出すということになるのではないか。

坂谷：いずれにしても個人負担は発生するという考え方なので、ある程度の資金は本人が調達すべきと思う。

資金については、この他出席者から様々な意見が出され、これを受け坂谷常務から今後検討していくのでご協力をお願いするとの発言があった。

3. パラオ国際親善レース報告について

新田理事より以下のように報告があった。

OP ディンギーレースを 12 月 28 日にシーパラダイスマリーナで、パラオから子供達 5 名と日本から 6 名の計 11 名で行った。

その翌日にクルーザー 7 艇が参加してスタートした。

リザルトは配布した通りである。PHRF で行い、ORC は不成立となった。

ロールコールは ICOM のイリジウムトランシーバーと、ソフトバンクの衛星携帯電話で行った。

トランシーバーとスラヤ携帯電話を全艇に無償貸与した。

表彰式は 1 月 15 日にバラオで盛大に行われた。

OP ディンギーレースに参加したパラオの子供達には「みらいへ」において 16 日間洋上授業を行った。

レース艇全艇が無事フィニッシュできたことは、海上保安庁より評価された。

4. 外洋艇推進グループの 2020 年度事業計画、予算要求について

坂谷常務より以下の説明がされた。

事業計画と予算は配布資料の通りである。

事業計画は「外洋加盟団体との関係強化」をひとつ目に挙げた狙いは連携強化である。

オリンピック種目となったオフショアレースへの参加を 2 番目に挙げた。

その他の事業では、外洋艇の登録を増やしていく。

計測委員会は国際レーティングルールの普及を 1 番目に、運用を 2 番目に、国際レーティングルール会議への参加を 3 番目、そして 4 番目に計測セミナー、5 番目に JSAF 会議への参加とした。

外洋安全委員会は 1 番目を外洋特別規定の普及、2 番目に安全航行の啓蒙、3 番目に無線局の普及、4 番目に外洋合同委員会会議とした。

ジャパンカップ委員会及びアメリカズカップ委員会は資料の通りである。

予算(案)について、外洋常任は収入 542 万円に対して支出 652 万円、外洋計測は収入 1,122 万円に対して支出 1,185.5 万円、外洋安全は収入 21.1 万円に対して支出 50.7 万円。

以上の予算を要求することとした。

望月国際委員長より国際会議の渡航費についての詳細の質問があり、坂谷常務より、あくまでも要求であるので削られるだろうとの回答があった。

他にも以下のような質疑があった。

猪上：ヤンマーの森田氏が昨日の新年会に出席していた。ヤンマーと話を上手にして JSAF の資産となるような調整ができないものだろうかと考える。

鈴木一行：過去のスポンサーに対する事後のフォローが足りなかったと思う。組織の関係と個人関係をきちんと整理すべきと思う。

平松理事：個人でやるのは大変なのでできない、広告代理店が使えれば良いと思う。

鈴木一行：JSAF はスポンサーリストを持っておくべきと思う。

望月：JSAF はマーケット委員会を作るべきとの意見が出ており、今後スポンサーを整理していくべきと考える。

中澤副会長：日の丸セーラーズは今後どうなると考えるか？

望月：今のままでは解散も継続もできない。今後どうするか考えていかなければならない。

坂谷常務：基本は個人的な付き合いなので、最初は個人が紹介してくれれば良いと思う。

吉田：安全委員会の海岸局の管理だが、加入証明は安全委員会への問い合わせか？

関根：現在は三崎局のみなので、三浦の HP を観て欲しい。

作田：通信は安全委員会で行っているが、安全委員会は OSR が主な業務となっているので、無線については検討する必要がある。

足立：無線局は JSAF が名義人なので JSAF で運営費の負担を検討してもらいたい。

等の質疑がなされ、11：50 に昼食の休憩に入った。

5. ジャパンカップ 2020 について

坂谷常務より以下の説明があった。

ホームページに、2019 については見合わせ、2020 については検討することになっており、委員会を 2 回開催して検討した。

ダブルハンド MIX がオリンピック種目になったときにジャパンカップをどうするか、との議論となり、全日本ミドルボートが、7 月 16,17,18 日に開催されるので、ドッキングすることも考えたが断られた。

また、ハイスピードボートとも話したが断られた。

NoR を出しても集まらないだろうと考え、当分の間見送ることにしてジャパンカップの基本的なところを見直そうという結論になったのでご承認を願いたい。

以上の説明に対して出席者全員が承認した。

6. 2020 年東京オリンピック応援フラッグリレーについて

フラッグリレーの状況が以下のように報告された。

坂谷常務：図面を添付してあるが、図面に表示してある部分を走っている。

日本海は福井と山口間を走れば繋がる。

菊池：6 月頃までなので、応援してもらえる艇が無ければ無理をしないでこのままとしたい。

坂谷常務：江ノ島へ持ち込めるのか、東京で引き渡すのか、大村事務局長と中澤副会長が都トコンタクトをとり調整している。

大村：江ノ島では 6 月中旬までに持ってきて欲しいとのことであったので、東京での受け取りを考えている。

坂谷常務：決まったらお手伝い頂けるヨットを検討したい。

現在フラッグの所在は、坂谷が一つ、菊地理事が 2 つ、湘南が一つ預かっている。

7. 登録艇ワーキンググループ報告

作田理事より、資料「会員管理システム 2020 年度画面切り替えについて」に基づき以下の報告があった。

2020 年 3 月 2 日より、2020 年度会員証が UP される。3 月に限ってはレースの関係があるので、2 年分を UP することにした。

従来方式採用の団体会員は、団体から JSAF に入金がないと会員証はアップされないが、団体入金日の記載があれば更新の確認ができる。記載しないと会員から JSAF 事務局に苦情が来るので是非入金日を記載してもらいたい。

氏名のローマ字表記は、苗字、名前の順となっている。

過去においては逆であったため、両方が混在している。

今後は、苗字、名前の順番で統一する。

メールアドレスの記載がないと、会員がアクセスできないのでメールアドレスを入力してもらいたい。

2019 年度艇登録料の支払いのない艇のデータは自動的に抹消される。

自分の団体以外の登録艇は自分のところでは抹消できないので、先方の団体か、JSAF 事務局にお願いして下さい。

艇登録証明書は団体入金日に記載があれば発行される。

各団体の事務局は JSAF 総務委員会のお知らせを見て欲しい。

吉田 ORC 委員長からの「計測証書の申し込みは、艇登録が条件なので事務局の寺澤さんに確認をお願いしていたが、今後は自分で確認するという事か」との質問に対して、坂谷常務より作田理事に対して、各委員会と調整してもらいたい、との発言があった。

8. 専門委員会報告

各委員会より以下のような報告がありそれに対して質疑がなされた。

ルール委員会外洋小委員会

大村委員長より、RRS55 を NOR 及び SI で変更することは今後認められなくなる。付則 RV 「視界不良時における協議規則」が発表されたが、使い分けについてルール委員会外洋小委員会で検討中である。

講習会を 2 月 2 日に函館で、2 月 16 日に福岡で開催する。

外洋計測委員会

八木委員長から、「外洋計測委員会は、2020 年度より IRC 小委員会と ORC 小委員会を統一して運用していく」との報告があり、これに対して以下の質疑がなされた。

関根：「IRC」をメインとして「ORC」に対してはデュアルスコアリングで対応するというのは見直したらどうか。

八木：そのレースのレース委員会が決めれば良いことであり、あくまでも推奨である。

吉田：IRC メインのデュアルスコアリング推奨の文章は 2017 年に出したが、ハンディキャ

ップについては、JSAF はディスプレイ方式であり、既に 3 年経つのでその文章を外したら如何と考える。

坂谷常務：計測委員会を統一すべきと考える。

鈴木保夫：レースを実行するレース委員会で選択すれば良く、委員会の統一は計測委員会のコストの観点からと思う。

作田：デュアルの意味を理解している人が少ないのではないかと思うので、分かりやすい文章にして頂きたい。

国際委員会

鈴木一行：SR のカテゴリー3 が変更になったが、分かりやすい文章を次回に準備する。

今後国内でサバイバルトレーニングを実施したい。

新田：レースに関係なくても受講者が増えるようになれば良い。

望月：アジア大会が 2022 年以広州である。

キールボート強化委員会

金子委員長がガバナンスコード講習会参加の為に欠席しているので代わりに中澤副会長より以下の報告があった。

昨年 7 月にイタリアでユニバーシアードに派遣したところ、東大が 8 位に入賞した。

8 月にカウズでチームレースのレガッタがあり参加したが成績を残せなかった。今年は 6 月にサルディニアで、勝てるメンバーを派遣したい。

12 チームが手を挙げたので選考する。

9. その他

沼田（玄海）：アリランレースでは PHRF と ORC、IRC クラスを作って表彰した。

IRC、ORC に拘るとハードルが高くなるので工夫が必要と思う。

中里（三崎）：外洋三崎では 2021 年春に小笠原レースを行うので参加して欲しい。

石川（南九州）：種子島レースがゴールデンウィークにある。

5 連休の中で納まるスケジュールにしたので参加して欲しい。

新田理事：小笠原、沖縄、パラオレースで古野電機のトラックターを利用している。

パラオレースでは 20 万回の閲覧であった。

小山（西内海）：西内海では 12 本のレースを行っているが、今回のレースで座礁した艇があり、保険を請求したところ保険がレース不担保であった。

主催者側では証書の中身まで確認していない。

この報告に対して以下の意見が出た。

新田理事：保険会社によってはレースが不担保になる。

鈴木保夫：NoR に「レース中有効な保険に加入していること」の文言を入れておくが良い。
望月（東京湾）：東京湾は水域が広いので、レースをシリーズ化して表彰しようと考えている。
坂谷（東海）：沖縄-東海レースを開催するので宜しく。
7月24日にパールレースを実施する。
7月16日、17日、18日に全日本ミドルボート選手権がある。
OSR カテ3はAISが条件だがパールレースもその通り実施する。

坂谷常務：9月26日（土）に外洋東京湾が担当し、横浜で開催する。

III. 閉会の挨拶

中澤副会長：昨日から2日間、多くの団体が出席して頂きありがとうございました。
新しい方にもオリンピックの協力をお願い致します。

14：30 閉会。

2020年1月26日

議事録署名人 新田 肇

議事録署名人 沼田 浩行